

科目名称：	ファイナンシャルプランニング演習Ⅱ	
担当者名：	北川 良徳	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>人生100年の時代に生きる皆さんが、1年後期での学びに、今回のプランニングⅡで更に生活経済に必要な知・技・考え方を加え、①社会人デビューを前に、自らのライフデザインを描き、初めの実現目標を定め、それを叶える為、一日・一週間・一か月積み上げて、自立生活方法を組むこと。②修得した知識から、3級FP技能士資格取得にチャレンジして、社会に自信を持って加わるよう、出会った人から信頼される存在になれるよう学修しましょう。あなたが資格取得で得た自信は、あなたに新たな興味の世界と、更なる向上心を生んでくれるでしょう。それをベースにあなたがチャレンジを続け、人生を輝かせ充実した楽しいステップを刻み、社会にも貢献する。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>この講座は、1年後期（ファイナンシャルプランニング演習Ⅰ）、2年前期（演習Ⅱ）、2年後期（演習Ⅲ）それぞれ週1講義（90分）計45回の授業を通し、自身のライフデザインを組み、その知識を以って演習Ⅲでは、3級FP技能士資格取得し社会で信頼されるよう、過去問題解説と演習を行い、講座の最終目標は、①社会人になる前に皆さんが知っておくべき生活経済知識を修得すること。②2年後期の演習Ⅲで、授業期間中の1月に行われる3級FP技能士の検定を受験し、技能士資格取得を目指します。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)		40	30	30	100
ビジネスDP(3)					0
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 ファイナンシャルプランナー	《経験年数1》 24年
	《内容2》 生命保険・損害保険の相談・募集 生命保険・関連税務などの指導・教育	《経験年数2》 40年
	《内容3》 FP技能士2級・3級受験者研修、講師	《経験年数3》 10年
	《内容4》	《経験年数4》

備考
授業15回の中程でグループワークを、知識面は3級過去問を繰返し実施。終盤にレポート(A4)提出していただきます。

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
生活継続に必要な経済知識を6分野に渡って習得	L.P.・金融・運用・不動産・相続の生活上必要な知識説明可	L.P.・運用・社会保険・公的年金・税制・相続の説明ができる	所得から、経済変化に備え運用、未来への備えを説明できる	6分野を概ね理解しているが、部分的に不足がある
共生社会での生活の備え、社会保険+公的年金+個人の保険、各制度を習得	左記3つの組合せで現在の生活水準維持の備えができる	左記3つの制度を理解説明できる	左記3つの制度を理解している	左記3つの制度の理解に不足がある
ファイナンシャルプランニング技能士3級合格ラインの知識習得	3級FP技能士過去問題で学科・実技とも7割正解できる	3級FP技能士過去問題で学科・実技とも6割正解できる	3級FP技能士過去問題で学科又は実技の6割正解できる	3級FP技能士過去問題で約5割正解できる
歩むライフデザインに、生活経済6分野を基に計画・選択・変化・共生を理解	環境・6分野知識共変化に生活デザイン見直し説明できる	環境変化に合わせ、L.イベント表再作成、生活備え見直し可	環境変化に、何を点検したら良いかを説明できる	6分野の所得運用と税・社会保険と公的年金・相続の理解不足

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 FPがライフデザインで使う資金計算係数とキャッシュフロー表で未来を予測	演習Iで説明の教科書第1章部分復習、未解説項目に目を通す。復習を是非	30分
第2回 ライフデザインで使う教育・住宅・長生きの資金計画と活用	教科書P20～49を予習。復習を必ず実施	30分
第3回 社会保険・公的年金①	P30～80、演習Iの復習、授業後の復習は重要	30分
第4回 社会保険・公的年金②	P30～80、演習Iの復習、授業後の復習は重要	30分
第5回 リスクと保険①(生命保険)	教科書P81～129。演習Iの復習。授業後復習を必ず実施	30分
第6回 リスクと保険②(生命保険)	生命保険と遺族年金・障害年金。授業後必ず復習を実施	30分
第7回 リスクと保険③(損害保険)、Gワークを予定	教科書P130～150。演習Iの復習。授業後の復習を必ず実施	30分
第8回 金融と経済、運用と商品・税①	演習I復習。教科書P151～205。授業後復習を必ず	30分
第9回 金融と経済、運用と商品・税②	教科書P206～234。演習Iの復習+予習。授業後は復習を必ず	30分
第10回 タックス	演習I復習。損益計算・税額控除。授業後復習を必ず	30分
第11回 家屋・土地の評価・取引・税(不動産)	教科書P313～388。初めの11ページ予習	30分
第12回 相続・事業承継	教科書P389～438。演習I復習。授業後復習を必ず	30分
第13回 FP技能士過去問題解説、知識確認①	解説・演習、授業後問題を2回復習	60分
第14回 FP技能士過去問題解説、知識確認②	解説・演習、授業後問題を2回復習	60分
第15回 FP技能士過去問題解説、知識確認③	解説・演習、授業後問題を2回復習	60分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、各回の予復習を小レポートにまとめておくこと。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
確認小(過去問)テスト 40%、終盤にレポート提出 30%、授業への積極的関与(Gワーク) 30%。

授業内確認テストは採点、紙面提出の課題レポートは評価し、返却する。

教科書・参考書

教科書：FP3級合格のトリセツ速習テキスト
参考書：FP3級合格のトリセツ速習問題集、その他は使用資料配布
※毎回の授業で使用する